岡山から日本を元気にするフリーペーパー

FREE 岡山ムーブアップ vol.23 NOV 2016

WILD WILD WARRIORS
EXILE THE SECOND

OKAYAMA MOVE UP

FRONT SPECIAL INTERVIEW-1-
EXILE THE SECOND

FRONT SPECIAL INTERVIEW-2-
妻夫木 聡

SPECIAL INTERVIEW-3-
前野 朋哉

SPECIAL COLUMN
EXILE TETSUYA

注目度さらに上昇中！

EXILE THE SECOND に３つの質問！

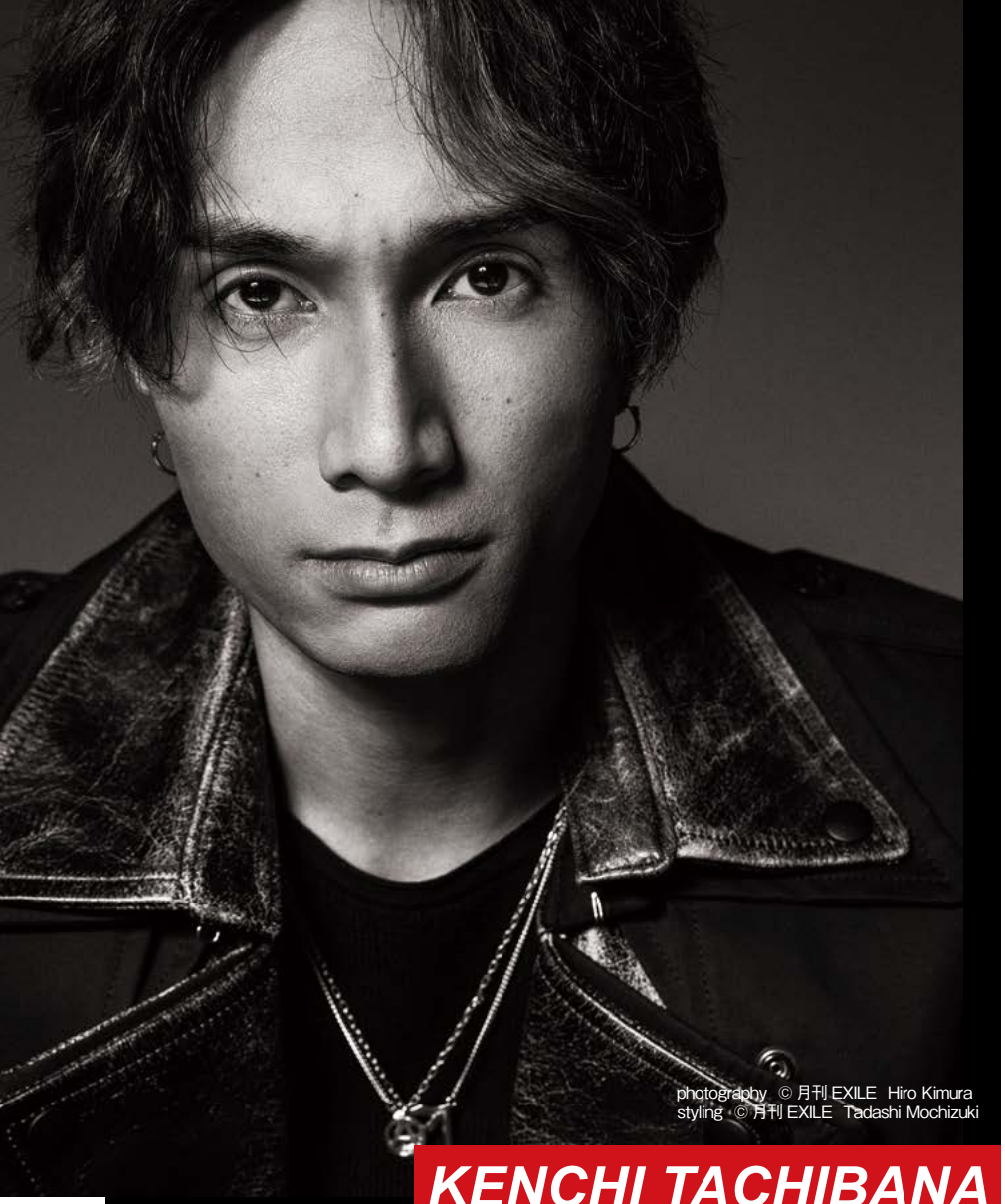
EXILE THE SECOND が注目を集めている。
2012 年に THE SECOND from EXILE として活動をスタートしている彼らだが、
EXILE THE SECOND として今夏リリースした
シングル『YEAH!! YEAH!! YEAH!!』を皮切りに本格始動。
さらに９月には EXILE AKIRA が加わり、グループは進化かつ深化。
そしてワイルドになっている。
新体制下での全国ツアー、EXILE THE SECOND LIVE TOUR 2016-2017
"WILD WILD WARRIORS" も始まり、ワイルドな波に乗っている彼ら。
いま感じていることとは？　多忙なメンバーに３つの質問をぶつけた。

怒涛の３カ月連続リリースシングル発売中

第一弾『YEAH!! YEAH!! YEAH!!』
[CD+DVD] 1944 円 [CD シングル]1080 円 [CD シングル] (タイトルトラックのみ) 500 円 (すべて税込)

第二弾『Shut up!! Shut up!! Shut up!!』
[CD+DVD] 1944 円 [CD シングル]1080 円 [CD シングル] (タイトルトラックのみ) 500 円 (すべて税込)

第三弾『WILD WILD WILD』
[CD+DVD] 1944 円 [CD シングル]1080 円 [CD シングル] (タイトルトラックのみ) 500 円 (すべて税込)



photography © 月刊 EXILE Hiro Kimura
styling © 月刊 EXILE Tadashi Mochizuki

KENCHI TACHIBANA

Q：EXILE THE SECOND の特長、魅力、強みは何？　ライブパフォーマンスにおいての特長、魅力は何と考えますか？
A：EXILE THE SECOND は、EXILE TRIBE の中で一番、ライブの自由度が高いグループだと思います。個人個人の表現の仕方を大切にしています。全員が EXILE であるので、経験値が高いのも強みです。それに、全員身長が高いので 6 人揃った時の迫力はスゴイと思います。

Q：本格始動発表後から今現在までの自分たちについてどう評価する？ 100 点満点で何点？
A：100 点‼　かなりいい流れでできているので。でも、100 点では満足しません。1000 点取りにいきます。

Q：2017 年や今後の目標は？
A：EXILE THE SECOND で、ドームツアー、海外公演したいですね。個人的には自分の表現をもっと磨いて、一人でも多くの人に感動をお届けしたいです。

Message For Fan

　本格活動 1 年目で、AKIRA も加入して、6 人体制になりました。僕たち的に EXILE THE SECOND の可能性がどんどん広がっていくのを感じていますし、これからそれを 1 つずつ形にしていこうと思います。ぜひ、僕たちについてきて下さい‼

Q：EXILE THE SECOND の特長、魅力、強みは何？　ライブパフォーマンスにおいての特長、魅力は何と考えますか？
A:EXILE THE SECOND の魅力は、全員 EXILE であることだと思います。100 パーセント EXILE の血を受け継ぐ純血なグループは他にはないので、EXILE エンターテインメントと僕らメンバー 6 人の等身大の表現を楽しんでいただきたいです。

Q：本格始動発表後から今現在までの自分たちについてどう評価する？ 100 点満点で何点？
A:評価は、僕たちではなく、ファンの皆さまにしていただけるものだと思っています。今後のツアーやその先にある活動で満点にできように頑張りたいです。

Q：2017 年や今後の目標は？
A：今後更に加速していく予定ですし、EXILE THE SECOND としての来年の活動も徐々に見えてきています。とはいえ、自分はパフォーマーなので、EXILE でも、EXILE THE SECOND でも、DANCE EARTH PARTY でも、どんなステージでも全力で踊るだけです。

Message For Fan

　いよいよツアーが始まりました！　全国の皆さんに今までお見せできていなかった僕らのエンターテインメントを届けて、未来に向かっていきたいと思いますので、これから見に来られる皆さまはお楽しみに！

photography © 月刊 EXILE Shiro Katagiri
styling © 月刊 EXILE JUMBO

EXILE NESMITH

photography © 月刊 EXILE Pak Ok Sun
styling © 月刊 EXILE Atsushi Hashimoto

EXILE TETSUYA

Q：EXILE THE SECOND の特長、魅力、強みは何？　ライブパフォーマンスにおいての特長、魅力は何と考えますか？
A：生感、ですかね。他のグループよりも肉体的なグループだと思います。野性味というか、男臭さみたいな。そういった力強さを内側にいて感じています。ツアータイトルにもありますけど、ワイルドなグループです。本格始動が決まって動き出した時から、ワイルドっていうのは作品や活動に反映されていると思います。

Q：本格始動発表後から今現在までの自分たちについてどう評価する？ 100 点満点で何点？
A：点数って難しいですね、でも強いてつけるならば 60 点かな。1 人 10 点ずつで 6 人、あとみんなで積み上げて 100 点に、さらにそれを超えていこうっていう気持ちですね。ツアーを終えたときに 100 点なのか 100 点を超える、なのかわからないけれど、ツアーを成功させられれば、その次が見えてくると思います。

Q：2017 年や今後の目標は？
A：まずはツアーを成功させたい、すべての日程をやりきりたいと思っています。そしたら、その先に、EXILE THE SECOND としてのドームツアーであるとか……そういうものも見えてくるんじゃないでしょうか。そのためにもまずはツアーに来ていただけた皆さまと一緒に盛り上がりたいと思います。

Message For Fan

　ファンのみなさん、応援ありがとうございます。EXILE THE SECOND、いかがですか？　お友達や周りの人に、いいよいいよって勧めてください。僕たちも高みを目指してやっていきます。よろしくお願いします。

Q：EXILE THE SECOND の特長、魅力、強みは何？　ライブパフォーマンスにおいての特長、魅力は何と考えますか？
A：ボーカル 2 人の歌声があっての音楽性であったり、エンターテインメント。特に SHOKICHI の若い新しい HIPHOP の捉え方と僕らパフォーマーの HIPHOP の捉え方が融合したときにまた新しいエンターテインメントができあがってるのかなと感じています。ライブには強いと自負しています。

Q：本格始動発表後から今現在までの自分たちについてどう評価する？ 100 点満点で何点？
A：点数をつけると僕の中でまだ 0 点です。僕らはドームツアーであったり、スタジアムツアーであったり、そういうところをレベルの高いところに EXILE THE SECOND を持っていきたいと考えているので、夢へのネクストステージにいきたいという感じです。

Q：2017 年や今後の目標は？
A：2017 年にはアリーナ／ホールツアー、2018 年にはドームツアーを狙っていけるように、世の中の人たちが EXILE THE SECOND というエンターテインメントであったり、曲を覚えていただけるような代名詞となるヒット作を作りたいと思います。個人的には昨年から始めた THE NINE WORLDS のプロジェクトを盛り上げていきたいです。地元の九州を盛り上げるという意味で作らせていただいたプロジェクトです。

Message For Fan

　ようやくアリーナツアーも始まりまして、EXILE TRIBE のまた新しいエンターテインメントが生まれたと自分らも自負しております。ぜひライヴのほうに来ていただければと思います！ そして僕らを知らない方々にも、知っていただけるような曲を発信していければと思いますので、皆さま今後とも応援よろしくお願いいたします。

KEIJI KUROKI

photography　© 月刊 EXILE　Motoki Mizoguchi
styling　© 月刊 EXILE　Masayuki Sakurai

EXILE SHOKICHI

Q：EXILE THE SECOND の特長、魅力、強みは何？　ライブパフォーマンスにおいての特長、魅力は何と考えますか？
A：EXILE TRIBE のなかで一番変幻自在。それは、メンバー全員が EXILE であり、さらにこれまで培ってきた経験から、いい意味での“余裕感”があるからこそだと思います。パフォーマンスも、ひとりひとりの個性がものすごく光るグループ。さらに僕らの楽曲は、テンションが上がる曲が多いので、観客の皆さんと一緒に盛り上がることができるのも魅力だと思います。

Q：本格始動発表後から今現在までの自分たちについてどう評価する？ 100 点満点で何点？
A：点数や評価というよりも EXILE の未来を見据えた先にある目標値＝僕らのあるべき姿に到達することに重点を置いています。僕らにはまだまだ足りていないものがたくさんあるので、もっとスピードアップして、EXILE THE SECOND として自分たちの目標値に到達しなければいけない。この 6 人で同じ未来を見ながら、目標値に向かって力強いパワーを発揮していきたいです。

Q：2017 年や今後の目標は？
A：グループとしてはドームツアーの実現、個人としては 2018 年の EXILE 集結のタイミングまでに自分自身を目標値まで上げていくこと。それまでは、EXILE THE SECOND が軸になっていくので、このプロジェクトを大成功させるべく、今まで以上に音楽と向き合いスキルアップして、EXILE THE SECOND を、そして個の力を高めていきたいですね。

Message For Fan

EXILE THE SECOND として初となる単独アリーナツアー『WILD WILD WARRIORS』は自分たちが未来に向けて挑む姿を投影したステージであり、僕らにとってのスタート地点。あますことなく僕らオリジナルのエンターテインメントとして姿を変え爆発させますので、楽しみにしていてください。

Q：EXILE THE SECOND の特長、魅力、強みは何？　ライブパフォーマンスにおいての特長、魅力は何と考えますか？
A：全員が EXILE メンバーであること、そして EXILE THE SECOND は EXILE TRIBE 、各グループの中でもライブに強いチームだと思います。HIRO さんの信頼の下、ライブの根本的なクリエイティブ部分も唯一、自己プロデュースしているグループです。

Q：本格始動発表後から今現在までの自分たちについてどう評価する？ 100 点満点で何点？
A：100 満点（笑）。全てに全力で向き合ってきましたので‼　ただ、評価をしてくださるのは、ファンの皆さまなので、正直なところ、僕らは何も言えません。

Q：2017 年や今後の目標は？
A：全て目標ですが、EXILE THE SECOND ドームツアー‼、EXILE THE SECOND アジアツアー‼ です。俳優としては、日本、海外問わず、もっともっといろいろなところで、たくさん芝居をしたいと思っています。

Message For Fan

いつも応援ありがとうございます！これからも EXILE、そして EXILE THE SECOND を宜しくお願い致します！

EXILE AKIRA

DANCEの道

EXILE TETSUYA“男を上げる”Monthly Column supported by ANGFA

第51回 THE SECOND のツアーを前に、新たな夢が…

2016 年 10 月 15 日、幕張はこれ以上ないほどの快晴に恵まれて、目覚めた瞬間にワクワクが止まらず‼ 前日の夜は緊張と不安であまり寝付けず、当日の朝は予定より 2 時間も早起きをしてしまい、なんとも小学生の遠足を思い出すかのような感覚でした（笑）。

そのくらいの準備と想いを込めて作り上げてきた DANCE EARTH PARTY 初めての LIVE は、DANCE EARTH FESTIVAL 2016 の最後のステージを無事に締めくくる事ができました。

『フェスをやりたい！』と ÜSA さんと話し始めたころから、コンセプトはとにかくハッピーで大人も子どもも誰でもボーダレスに一日中楽しめる場所にしたいと構築してきました。

世界中の音楽、DANCE、楽器、食べ物、飲み物を一度に楽しめる、小さな小さな地球がそこにはあるようなイメージでたくさんの方々のお力をお借りして、形にする事ができましたし、本番当日は本当にたくさんのお客様が遊びにきていただいた、小さな地球はハッピーで溢れる一日になりました。本当に感謝しております。

DANCE EARTH PARTY の LIVE は、リリースさせていただいた曲数もまだまだ足りない中でのセットリストだったので、未発表の新曲を聴いていただいたり、ゲストをお迎えしたりしていろんな形のパーティーで、音楽やダンスを表現する事ができました。まさかの DJ MAKIDAI さんのソロダンスとか、EXILE THE SECOND と DEP のコラボ曲『HEART OF A LION』の初披露など、初めてのフェスの開催をお祝いしにたくさんの仲間たちが駆け付けてくれた事は感動しましたし楽しかったです。

そんな中の一曲に、DEP の最初の曲である『イノチノリズム』という曲があるのですが、この曲は当時は EXILE NESMITH と Crystal Kay がボーカルとして、リリースした曲だったのですが今回、DEP のボーカルの Shizuka ちゃんも加えた 3 人ボーカルバージョンで『イノチノリズム～グレートジャーニー～』として初披露させていただきました。

実は、リハーサルをしている時に、この曲の振り付けをどうしようかと話し合っていたら、ÜSA さんがサビの部分以外を、手話を加えたダンスにしてみたいと言ってくれて、挑戦してみました。

以前から手話ダンスで活動しているハンドサインの皆さんに振り付けをしていただき完成したのですが、今まで踊ってきたダンスとは全く違う、新感覚なダンスと出会う事ができました。

歌詞の意味を深く感じながら手話を使って一つひとつ形にしていき、更に音楽に乗せる作業は、本当に勉強になりました。

そして、以前から個人的に何度か一緒に踊ってきた、筑波技術大学のダンスサークルのみんなとも同じステージに立ちたいという夢も叶える事ができました。彼らのダンスを初めて見たのは映像だったのですが、全員聴覚に障がいがあると聞いた時は本当に驚いたと同時に一緒に踊ってみたいという気持ちになり会いに行ったのが始まりでした。それぞれ障がいには個人差があるのですが、みんながダンスを愛していて気持ちの良い素敵な若者たちです。

そんな彼らとの最高のステージを終えた後に、1 人の男の子から手紙をもらいました。その手紙の内容の中の一つにその男の子の夢が書いてありました。

“ いつか聴覚障がい者のミュージカルをやる事が夢です ”

その子は前から一緒に踊っていても感じましたが、本当にダンスが大好きで、常にハッピーなオーラで周りを明るくしてくれるような素敵な人で、人間的にも大好きです。この男の子の夢がいつか叶ったら絶対に見に行かせていただきたいですし、むしろできる事なら出演したい‼ と思いました。

踊りで感動を共有した仲間は一生の友達だと思っていますので、いつかまた一緒に踊る事を楽しみにしています。

さてついに EXILE THE SECOND のツアー『WILD WILD WARRIORS』が 10 月 29 日から新潟を皮切りに始まります。こちらもワクワクドキドキですが、たくさんの方に楽しんでいただけるように、精一杯踊らせていただきますので、ぜひぜひお楽しみに‼

（TOKYO HEADLINE vol.677　2016.10.24 発行号より）

19 歳よりダンスを始め、EXILE PROFESSIONAL GYM にてインストラクターを務める。2007 年に、二代目 J Soul Brothers のメンバーに抜擢され、2009年2月25日に、アルバム『J Soul Brothers』でメジャーデビューを果たす。そして、同年 3月1日に EXILE 新メンバーとして加入し、2011年には、THE SECOND from EXILE としても活動を始める。また、個人活動として 2011年に月刊 EXILE にて、自身が所長を務める『EXILE パフォーマンス研究所』の連載を開始する。 2013 年、眠り of the year 2013「ベストネムリスト」の受賞を果たす。2014 年 4月、淑徳大学人文学部表現学科の客員教授に就任する。そして、2015年 4月に EXILE ÜSA が活動を行っている DANCE EARTH PARTY の正式メンバーに選ばれる。そのほか、役者としてドラマや舞台に出演するなど、さまざまな活動を展開し、エンターテイメントの可能性を広げている。

前野朋哉

Special Interview

僕らの、おかやま晴れの国大使に今夏就任！
新しく岡山の顔になったアノ人にインタビュー

一寸法師で大人気だけれど、岡山では桃太郎になって岡山を PR している姿がずっとしっくりくる。岡山県出身で、俳優で映画監督の前野朋哉。映画にドラマに、CM にとさまざまなフィールドで活躍中だ。今夏、おかやま晴れの国大使に就任。さまざまな経験を通じて、改めて岡山の魅力を発見。郷土愛もぐんぐん深まっているという。

撮影：蔦野裕　　撮影協力：とっとり・おかやま新橋館

倉敷での中高生時代に映画に出会った。あの時に感じた、楽しさや興奮が、今の自分のベースになっていると思う。

ドラマや映画、CM などで精力的に活動をする俳優で映画監督の前野朋哉。かねてから岡山県の PR キャンペーンに登場していた彼。大学進学で岡山を出るまでは倉敷市で、豊かな自然に囲まれて育った。

「山があって川があって。川にはしょっちゅう釣りに行っていましたし、学校が持ってる栗山には毎年栗を取りに行ってましたね。田んぼが広がっていて、そこで犬の散歩をする。子供のころのことを思い出すと、そういう風景が広がります」

前野が語るとその様子が映像となって広がる。彼の背中を映画のほうへと押したのは、倉敷と振り返る。きっかけは、中学と高校の恩師と、映画館。

「中学の担任の先生は洋画好きで、朝の会でいつも見た映画の話をしてくれました。その話が気になって、倉敷駅前にあった映画館、センシュー座にはよく行きました。自転車で急いで 20 分、ゆっくりで 30 分ぐらいだったと思います。たいてい何人かで行くんですけど、センシュー座の人がいい人で、僕らがお金を持ってないのが分かるから、もう上映が終わった古い映画のパンフレットやポスターをくれるんです。僕らは特典付きで映画が見られるような感覚でした。あの頃は 1300 円？だったかな、中学生には安くはなかったから、そんな特典がすごくうれしかったです。そのセンシュー座も中３の時にはなくなりました。最後は、古い映画のリバイバル上映。古いといっても、ちょっとだけ古い、当時の 10 年前くらいの古い映画を上映してました。たぶん、お客さんが入った人気のあった映画をやったんじゃないかな。それをスクリーンで見られたのは、今思えば貴重な体験でした」

センシュー座や倉敷の映画館にはたくさんの思い出が詰まっている。

「何を見るとか誰と見るとか、映画を見ることそのものがイベントでした。倉敷の駅前に出ると、他の中学の生徒に会うこともあるから、服も気にしてました。イケてるグループじゃないから、ちょっと新しいのを買うとかそれぐらいなんだけど、みんなでできるかぎりのオシャレをしていたつもりです。いろいろ思い出はありますけど、そうですね、いつも誘う映画好きな友達がいたんですけど、いつもその子ばかりになっていてはと気を使って声をかけて、最終的には 10 人ぐらいで見に行ったことがありました。アーノルド・シュワルツェネッガーの『エンド・オブ・デイズ』だったんですが、これが……めちゃくちゃ面白くなくてみんなでヘコんで帰りました。映画を見た後は喫茶店なんて行く余裕がないから、自転車での帰り道や友達の家で見た映画の話をしたのですが、僕主体の会だったから責任を感じました。僕から面白くなかったよね、とは言えなかったです」

映画好きの中学生をさらに燃え上がらせたのはやっぱり先生だった。

「中学の時には今後の人生で映画に関われたら、というのは漠然とあって、担任の先生が映画だったらハリウッド、ハリウッドなら英語、だったら英語の強い高校に行け、と。それで天城高校に入りました。でも勉強についていけなくて、美術部ばっかりいってました（笑）。内藤先生という方がいらして、いろいろな“もの”の見方を教えてくれたんです。使われていなかったプロジェクターで、映画もたくさん見せてくれました。見ておかなきゃいけない映画って何本かあるんですけど、それもその時に見ています。当時自分が見ていなかった古いクラシックの映画とか、それが面白かったんです。それがきっかけになって本腰をいれて映像の勉強をしよう、と。映像学科があるのを知ったのも美術部でした」

倉敷での中高生時代こそが、自分のベースだという。

「中高生時代に、映画から感じた楽しさや興奮が、今の自分のベースになっていると思います。センシュー座があって良かったし、そこに導いてくれた先生、勉強以外にも面白いものがあるんだよって言ってくれる先生がいてくれて良かったです」

前野朋哉、大使就任式で「本家の自信ある」！

前野朋哉が「おかやま晴れの国大使」を務めることになり、８月３日、東京・新橋にあるアンテナショップ「とっとり・おかやま新橋館」で行われた就任式に出席した。式には 2014 年から同大使を務める Bose（スチャダラパー）が出席し、岡山県知事の代理で嘱託状を手渡した。Bose から「とくに大きな仕事はない。名刺をたまに配っているぐらい」とカジュアルなアドバイスを受けると、ほっとした表情。旬の桃をほおばり、おかやまの味を PR した。

前野は大使就任以前の昨年 10 月から、桃太郎姿で岡山県の PR 動画やポスターに登場。au の三太郎シリーズで共演中の桃太郎、松田龍平に自身も桃太郎を演じると報告したそうで「いいじゃん！」との反応だったという。同 CM の他にも“もっとかっこいい”桃太郎がいるが、自身の桃太郎の強みについては「バックに岡山がついていること。本家だぞっていう余裕がある」と話し、笑わせた。

撮影場所は東京都新橋一丁目にある『とっとり・おかやま新橋館』。岡山県の様々な特産品、海の幸、山の幸など、多彩に取り揃えており毎日買い物客でにぎわっている。

岡山を離れてから10年余。俳優、映画監督に、今年の夏にはおかやま晴れの国大使の肩書きも加わった。「郷土愛は18の時より深まりました」と、本人。

「仕事で（岡山に）うかがうことも多くなったり、特産品に触れたりして、改めて岡山の魅力を発見しています。いろいろな方と話すときにも、大使になったことや岡山のことが話題になることが増えています。なかなか帰省はできていませんが、倉敷に行けた時には美観地区に散歩に行っています」

撮影対象としても興味があるというスナックにも訪れる。

「どこでも地元の情報が一番分かるのはタクシーの運転手さんか、スナック。どこの土地でもスナックには面白い人がいっぱいいますが、岡山のスナックは濃いし、アタリが多い。岡山に来たらスナックにも来てほしいと思います（笑）。いつかスナックで作品も撮りたいと思ってます」

スナック作品の実現を待ちつつ、今後の出演作も楽しみ。19日から、森岡龍とW主演した最新映画『エミアビのはじまりとはじまり』（渡辺謙作監督）が岡山でも公開になる。劇中では漫才コンビのエミアビを熱演。エミアビは、スクリーンを飛び出して、漫才日本一を決定する『M-1グランプリ2016』にも出場した。

「二回戦で敗退しました。もう、悔しかった！　また挑戦したい。本音を言えば、来年も挑戦したいぐらいです。相方（森岡）は何て言うか分からないけど」

見どころは「たくさんある」と、きっぱり。

「歌とか漫才とか、アクションとか。この映画では、チャレンジしたことが多いんです。俳優が実際に何かに挑戦している姿が映っているので、それを見ていただけたら。それと、この作品は、僕にとって、ターニングポイントの作品になっていると思います。覚悟を決めること、何かをやる自信、この作品ができたからには他の作品もできるっていうね」

今後の“大使”の活躍に注目だ。

『エミアビのはじまりとはじまり』

金髪ロン毛で自称モテキャラの実道と三枚目キャラの海野によるお笑いで人気を博していた漫才コンビ・エミアビ。ところが突然、海野が交通事故で死んでしまい、残された実道はマネジャーの夏海を連れ、先輩であり恩人だった元天才芸人・黒沢に会いに行く。

前野朋哉による初日舞台挨拶も！

監督：渡辺謙作　出演：森岡龍、前野朋哉他／1時間27分／ビターズ・エンド配給／11月19日より岡山・シネマクレールにて公開　http://bitters.co.jp/emiabi/

© 2016『エミアビのはじまりとはじまり』製作委員会

『夢を持つ人の名前』＝『夢名』

大きくも小さくも誰しもが心に熱く持っている『夢』。
OKAYAMA MOVE UP『夢名～DREAM STAGE～』では
そんな夢の途中を駆け抜ける岡山の原石にスポットをあて、
夢への想い、そしてこれから向かう先をインタビューしていきます。

03 DREAM NAME interview シティライト硬式野球部

桐山 拓也（監督）／中島 一夢（キャプテン／内野手）／小竹 一樹（内野手）

圧倒的な知名度を誇る中古車販売店シティライトが行う実業団野球チーム『シティライト硬式野球部』。全国大会制覇を目指し、日々の仕事と野球を両立しながら、チームが目指す今後の夢とは。

04 DREAM NAME interview 平賀 久登

株式会社さくら 代表取締役

一般住宅から公共施設や学校、商業施設など、様々な現場の足場工事を行う株式会社さくら。創業者であり代表取締役の平賀氏が描く今後の展望とは。

05 DREAM NAME interview 山下 三郎

株式会社ひかりペイント 代表取締役

あらゆる建物の塗装を行う、株式会社ひかりペイント。新たな挑戦となる塗装に関するショールーム設立とともに、代表取締役の山下氏が描く今後の展望とは。

03
DREAM STAGE
interview

シティライト硬式野球部

内野手
小竹　一樹（こたけ　かずき）

キャプテン/内野手
中島　一夢（なかじま　はじめ）

監督
桐山　拓也（きりやま　たくや）

圧倒的な知名度を誇る中古車販売シティライトが行う
実業団野球チーム『シティライト硬式野球部』。
日々の仕事と野球を両立しながら、チームが目指す今後の夢とは。

全国大会に出場、また日本一になるという形で絶対にいつか恩返しをしていきたい。

―― シティライト硬式野球部の歴史と創部のきっかけを教えてください。

シティライト硬式野球部　監督　桐山拓也（以下、桐）2007年に創部して、今年で9年目になります。また、きっかけは『スポーツを通じて地域貢献』という想いから、創部しました。実際に子どもたちを対象とした野球教室などを定期的に行っています。

―― シティライト硬式野球部としてのチームスローガンなどはあるんでしょうか？

桐：毎年、スローガンは掲げています。今年のスローガンは『打破』なんですが、これはあと一歩というところで全国の切符を逃していたんですが、その1枚の壁を破るという想いで掲げました。

―― 現在、シティライト硬式野球部が出場、また目標にしている大会はどういった大会があるんでしょうか？

シティライト硬式野球部　キャプテン　中島一夢（以下、中）：1年を通じて、JABA岡山大会、JABA京都大会、都市対抗岡山予選、都市対抗中国予選、JABA広島大会、日本選手権中国予選、岡山県大会に出場しています。

―― シティライト硬式野球部としての活動を行う中で、何か得られたこと、培われたことはありますか？

桐：社会人として成長できたかなという部分は様々な面で感じます。仕事をしながら野球をするという環境の中で、やはりやらしてもらえているという立場なので、感謝の気持ちを持ちながら、仕事や野球に取り組めるようになったと感じています。

小竹一樹（以下、小）：野球を通じて、一緒にプレーをしているチームメイトもそうですし、応援していただける皆様との繋がりなど、多くの人との繋がりができたことです。

―― シティライト硬式野球部はどんなチームだと感じますか？

中：うちのチームは年長者が30歳、年少者が18歳と、他のチームに比べて、選手年齢も若く、また歳が近い選手が多いです。その分、叱咤激励というか、やっぱり言えることや、できることなどもあり、すごくやりやすい環境だと思います。また、練習外でもチームメイト同士で食事などのコミュニケーションもよく行っています。

―― 岡山県の中で今後、シティライト硬式野球部をどういった存在にしていきたいですか？

桐：今の少年野球や、中学、高校、大学野球をしている選手に、『強いチームだな』『あそこでプレーしたいな』といった目標だったり、憧れを持ってもらえるようなチームにしたいですね。やっぱりそのためには大きな大会で勝利することが1つのポイントとして繋がってくることだと思うので、とにかく勝つために日々野球に取り組んでいます。

―― 今後の目標を教えてください。

桐：全日本選手権で優勝することです。やはり日本一になることで、チームはもちろんのこと、自分の周りや、会社、応援してくださる皆様の想いや、見る目が変わってくると思うんです。それがここで野球をやらせてもらっている僕らができる一番の恩返しでもあると思っているので、目指したいです。

中：まずは2大大会といわれる大会に出場することで、また、そこで優勝することが次の夢ですね。このチームではまだ立ったことのない大会なので、そこにまず立つことでチームの意識もさらに高まり、自信もついていくチャンスだと思いますし、また、新たな選手が入部するきっかけにもなりさらにチームの成長にも繋がると思うので、まずは2大大会に出場したいですね。

小：皆さんと同じにはなるんですが、日本一ですね。やっぱり全国大会に出場することで、僕らの意識があがることもそうなんですが、実業団としてプレーしている僕らが、全国に会社の名前を知ってもらえるチャンスだと思うんです。それが自分たちの周りへの感謝や恩返しをできるきっかけになると思うので、目指していきたいです。

―― 最後に、野球とシティライトはどんな存在でしょうか？

小：野球は自分にとって、『ご飯』と一緒です。日々生きていく中で自分にはなくてはならない存在ですし、野球がない生活は考えられないです。また、シティライトという会社は自分にとって『親』です。今野球をやらせてもらっているという立場にある自分たちなので、常に感謝をしていますし、全国大会に出場、また日本一になるという形で、絶対にいつか恩返しをしていきたいです。

photography：Yoshifumi Nishihira

04
DREAM STAGE
interview

社員全員が自分の仕事を『誇れる仕事』に。

株式会社さくら　代表取締役
平賀 久登
ひらが　ひさと

一般住宅から公共施設や学校、商業施設など、
様々な現場の足場工事を行う株式会社さくら。
創業者であり代表取締役の平賀氏が描く今後の展望とは。

―― 株式会社さくらのお仕事内容を教えて下さい。

株式会社さくら代表取締役　平賀久登（以下、平）：弊社は建築業に携わる足場工事、いわゆる鳶ですね。建物を建てる際の足場や、それに際して必要な養生であったり、イベントのステージを組んだりすることがメインの仕事です。

―― 平賀社長がこの業界に入ったのはいつ頃なんでしょうか？また、会社を設立するきっかけは何だったんでしょうか？

平：僕は18歳からこの業界に入りました。最初はバイト感覚で色々な職種の現場に行ったりしていたんですけど、自分自身に子どもができ、社員が結婚したり、子どもができたりしたときに、周りから「何の仕事をしているんですか？」と聞かれたときに、何と答えたらいいのかわからないような仕事をいつまでも続けていてはいけないと思ったんです。そこから胸を張って「足場です！」と答えられるような『誇れる仕事』をやっていこうと決意しました。

―― 株式会社さくらではマナー教育なども取り組まれているのですが、これはどういった想いから始められたんでしょうか？

平：建設業界でいうと、まだまだ世間的なイメージが良いとは言い切れない部分があると思うんですね。例えで言うと、我々のような足場業界に新卒生が入社してくるかというと、大手ゼネコンは別としてもなかなか難しい業界なんですよね。ただ、人材不足といわれる時代で、今後高校、大学の新卒生が入社を希望する企業になるには、そういったイメージを払拭するためにマナー教育が必ず必要になってきます。また、お客様と接する際にも、仕事よりもまず絶対に大切なのが礼儀、マナーです。いくら仕事ができても、基本的な礼儀がしっかりできていないとお互いに気持ちよく仕事できないですよね。

―― どういったマナー教育を行われているんでしょうか？

平：基本的なことですが、毎朝の朝礼時にオアシス運動、毎月２回、社内で安全協議会という会議を開催しています。その中で安全面に関する会議と、マナー教育として基本的な挨拶から、お客様対応に関する内容を行っています。

―― 今後は新卒生へも目を向けられているということなんですが、若い世代へ向けて伝えたいことはありますか？

平：イメージ的には怖い、きついというイメージがどうしてもあると思います。確かに楽な時ばかりではないですが、この仕事をやっていくことによって、人生に置いて必ずいい経験になる仕事だと私は思っています。先ほどもお話した礼儀であったり、人間関係など得ることは様々あるので、まずはイメージだけにとらわれず、きっかけがあれば特に若いうちに是非一度チャレンジして欲しいと思います。

―― 仕事をする中で一番大事にしていることは何ですか？

私がいつも想い、社員に伝えているのは『誇れる仕事』ですね。仕事をしていく上で、プロ意識を持って、これなら絶対に誰にも負けないという想いを持って取り組んでほしいということと、自分の親や子ども、大切な人など、周囲の人から見ても、仕事はもちろん、挨拶なども含め人間として立派だなと思われる行動をしようと全員に伝えています。また同時に私は、皆のパフォーマンスを最大限発揮できるように環境を整えていっています。例えばトラック１台にしても古いトラックを乗るか、新車のトラックを乗るかでも、周りからの見え方、社員のモチベーションも変わりますよね。そういったハードとソフトの面を交えながら、誇れる仕事を全員にやってほしいと思っています。

―― 平賀社長がこの業界に入って一番自身が得たと感じるものは何でしょうか？

平：横の関係、縦の関係、全てを含む人間関係ですね。良くも悪くも多くの人と接していく中で、人を雇うことの大変さ、仕事に対する責任感や考え方、厳しさの中にある優しさであったり、そういう部分では経営者という立場上普通に働いていては絶対に見えない、聞けないことを日々勉強させてもらっていると感じますね。

―― 足場工事、鳶という職種の最大の魅力をどういった部分に感じられますか？

平：『粋』なところですね。建物を立てるとなると、どんな場合でも先行して現場に入るのは鳶なんですね。まず足場がないと他の仕事もできないですよね。現場に一番に入り、まず形をつくる。そして高所作業でも声を掛け合いチームワークを発揮してどんどん形にしていく。そんな部分が粋な仕事だと感じますね。

―― 最後に今後の夢、展望を教えて下さい。

平：日頃支えてくれている社員、お客様に対して必ず恩返しをしていくことが一番の夢、目標というかやらなければならないことです。また、社員に対しても、ここで働いてよかった、鳶の仕事をしてよかったなと思える会社にすることが一番の目標です。お客様に対してもさくらに全て任せとけば間違いないと言っていただけるように成長していきます。また、現在うちの会社には約20名の社員が頑張ってくれているのですが、今後は社員の数も増やしていきながら、建設業という中にはもっと様々な職種があるので、その中で今以上に資格も獲得しながら、日々自分自身、また会社を成長させていき、もっと様々な仕事に対応できる組織にしていきたいですね。

photography：Yoshifumi Nishihira

どんな仕事にも『心』が込もっていないといいものはできない。

05
DREAM STAGE
interview

株式会社ひかりペイント　代表取締役
山下 三郎
やました　さぶろう

あらゆる建物の塗装を行う、株式会社ひかりペイント。
新たな挑戦となる塗装に関するショールーム設立とともに、
代表取締役の山下氏が描く今後の展望とは。

―― 株式会社ひかりペイントのお仕事内容を教えてください。

株式会社ひかりペイント代表取締役　山下三郎（以下、山）：建築塗装という業種になるのですが、8割方リフォーム関係の塗装を行っています。

―― この業界に入られたのはいつからなんでしょうか？

山：私は学校を卒業して、すぐにこの業界に入りました。それから他の仕事もやっていた時もあったんですが、自分が一番何ができるかと考えたとき、それが塗装業だったんです。そこからまた5年程修行をし、自分の力でやっていけるかを挑戦したいという想いから独立しました。これまでは個人経営でやっていたのですが、社員の雇用形態や今後新たな展開をする上で、より社会に認めてもらえるように、昨年に株式会社を設立しました。

―― 修行期間ではどのようにステップアップされていくんでしょうか？

山：職人といっても正解のない職人で、追求すればする程奥の深い業種なので、ここからここまでで一人前という節目は決まってはいないんです。ただ、ある程度の流れを掴むまでが約3年で、10年ぐらいやり続ければ、おおよそ総合的にやっていけるようになります。

―― 塗装業の魅力をどのような部分に感じますか？

山：仕事的には、我々は仕上げ業なので、やはり自分の施工したものが外観として目に見えて残り、さらにお客様にも喜んでいただけるという部分が魅力でもあり、やりがいを感じるときですね。

―― 経営者という立場から日々大事にしていることはありますか？

山：やはりチームワークですね。どちらかというとこの業界が出入りが頻繁にあるほうなんですね。3～4年目ぐらいになってもう少しである程度ができるかなと思える実力がついたときに辞めてしまう方が多いので、そういった部分を解消するためにも、日々のコミュニケーションやチームワークを大切にしています。また、現場でいうとお客様からお金をいただく以上、仕事はできて当たり前なんです。なのでプラスアルファーで掃除や挨拶など、細かい部分までケアしています。

―― この度11月末より、岡山市北区の庭瀬でショールームが行われるということなんですが、そこではどういったことをされるんでしょうか？

山：一般的な、塗装、塗り替えリフォームをする上で、お客様は簡単な説明と御見積書だけを見ても、どうしてもイメージが湧きにくいと思うんですね。そういった部分を解消するために、完成後のイメージから、使用する素材、またその素材の特性など、お客様がより明確にわかりやすく知ってもらえ、そして納得してもらえるようになる場所として塗装に関するショールームをオープンします。

―― そういったニーズはやはり多かったんでしょうか？

山：多かったですね。イメージが湧かないということはもちろんなんですけど、例えば専門的な遮熱塗装などを使用するとなった場合でも、塗ってどうなるの？という疑問を今回のショールームでは目に見るだけではなく、実際に触れて体感することもできるので、一緒に勉強できる場としても活用できればと思っています。こういったショールームは全国的に見るとやっている企業は多いんですが、岡山県内でいうとまだ数社しかないので、うちもこういった取り組みをすることで、お客様へより安心と安全を提供できればと考えています。

―― ショールームをどういった場所にしていきたいですか？

山：ご相談ベースからでもお気軽に立ち寄ってもらえるようにしたいですね。やはり塗装というのは特殊な工事になってくるんですね。その中で何が大事になるかというと、お客様がより理解し、知識を持つことだと思うんです。お互いが納得して着工できるようにこのショールームを活用していきたいです。

―― 山下社長の好きな言葉として『仕事は心』とあるのですが、これはどういった想いがあるんでしょうか？

山：うちの父親が昔ながらの大工職人なんですけど、自分自身も建築に携わる仕事をするようになって、どんな商品をつくるのも、やっぱり心がこもってないといいものは生まれないんですよね。例えば料理でいうと、どれだけいい食材があっても料理人がそこに想い、心をいれないとおいしいものは絶対に生まれないんですよね。そういう意味合いで、どんな仕事をするときも真心こめて仕事に向き合い、それがお客様に伝わるようにしたいなという想いがあります。

―― 今後の夢、目標を教えてください。

山：今後の目標としては、ひかりペイントに依頼をすれば間違いない。と言ってもらえるようにブランド価値を高めていきたいですね。そのためにも、この度オープンするショールームという店舗スタイルを構えるのは塗装業界でいうと県内でみると限りなく少ないんですけど、県内に4店舗ほど展開していきたいと思っています。まだ始まったばかりなので、まずは庭瀬の1店舗目からしっかりお客様に満足してもらえる基礎をつくり、どんどん輪を広げられるようにしていきたいですね。

photography：
Yoshifumi Nishihira

OKAYAMA MOVE UP PRESENT'S

MOVE UP MUSIC

powered by TSUTAYA

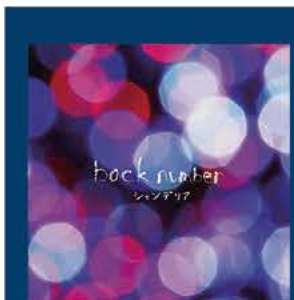
人生が「アガる」一曲を、あなたに。

vol.9 寒い季節も心はアガる、あたたまる!!

だんだんと秋も深まり、肌寒い季節になってきました。

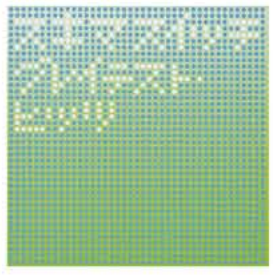
冬はなんだか切ない曲が多く、少ししんみりと浸れる曲が聴きたくなるようですが、今回は心温まる曲をPICKUP。

温かい曲を寒い中で聴くとすごく心に沁みます。。寒い季節ですが、音楽で温まってHAPPYに過ごしましょう♪



Album Title
シャンデリア
Airtist
back number
Comment from TSUTAYA
おすすめは「ヒロイン」。ウィンターバラードの片思いソングといえばこの曲。”となりで雪が綺麗と笑うのは君がいいでも寒いねって嬉しそうなのも”という歌詞に胸が熱くなること間違いなし。

Album Title
ユグドラシル
Airtist
BUMP OF CHICKEN
Comment from TSUTAYA
おすすめは「スノースマイル」。冬を思わせる音色が素敵で肌寒い時期に聴くとより良さが際立ちます。曲中に出てくる2人のやりとりが可愛いのもいい。



Album Title
グレイテスト・ヒッツ
Airtist
スキマスイッチ
Comment from TSUTAYA
おすすめは「冬の口笛」。メロディよりも歌詞に時間がかかったという“最後までハッピーな恋愛と冬”という歌詞のテーマ曲。知らない方はぜひ聞いて欲しい。冬に心が温まるやさしい1曲。

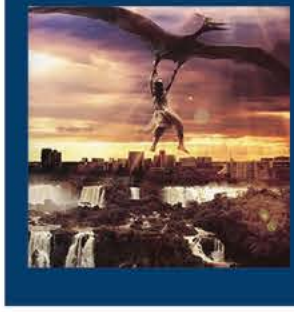
Album Title
Under the Mistletoe
Airtist
Justin Bieber
Comment from TSUTAYA
おすすめは「恋人たちのクリスマス」のカバー。こちらはクリスマスアルバム。スティーヴィー・ワンダーのカヴァー「サムデイ・アット・クリスマス」、ボーイズIIメンとの「ファ・ラ・ラ」も必聴です。

Album Title
秋うた、冬うた。〜もう恋なんてしない
Airtist
槇原敬之
Comment from TSUTAYA
おすすめは「冬がはじまるよ」。CMにタイアップされたこともあり、この曲を聴く度に冬の訪れを感じます。冬に冷たいものを飲む楽しさ、また冬のパーティの楽しさ、そういうものを思い出させてくれます。

Album Title
TEARS(ALL SINGLES BEST)
Airtist
中島美嘉
Comment from TSUTAYA
おすすめは「雪の華」。物憂げで切なく流れるメロディの中に、中島美嘉さんが歌うしっとりとした声がとてもマッチしています。日本の美ともいえる冬の名バラードです。

Album Title
レミオベスト
Airtist
レミオロメン
Comment from TSUTAYA
おすすめは「粉雪」。何年経っても色あせない名曲。雪が降ると、自然とこの曲が脳内で再生されます。力強いけどどこかあったかいバラードはまさに冬にピッタリです。

Album Title
Home[1997〜2000]
Airtist
ゆず
Comment from TSUTAYA
おすすめは「いつか」冬が近づくと聴きたくなる名曲。北川さんの切ない歌声が胸を打ち、岩沢さんのハモリにグッときます。この曲のように人を想いたい、想われたいという素直な気持ちさせてくれる1曲。



Album Title
MARVELOUS
Airtist
MISIA
Comment from TSUTAYA
おすすめは「Everything」。壮大な世界観を思わせるメロディと純粋に相手を思う気持ちが綴られた歌詞に、誰かといたいと思ってしまう曲。

Album Title
Christmas Kisses
Airtist
Ariana Grande
Comment from TSUTAYA
おすすめは「Santa Tell Me」。キュートな歌姫が贈る心温まるクリスマスアルバム。ワム！のカヴァー「ラスト・クリスマス」や、アーサ・キットのカヴァー「サンタ・ベイビー」もおすすめ。

さんが人 おかやま

-ALL MADE OKAYAMA-

vol.10

『醤油愛、郷土愛。』

アーティスト活動・アパレル・BAR・イベントプロデュース業など、
多岐に渡り活動を行うBAZ-KがMCとなり、
毎回様々なジャンルの方をお招きし、岡山代表として、
あらゆる視野から、“ぶっちゃけ”で対談を行うコーナー。
今回は、岡山は備前市香登にて醤油を醸造する
鷹取醤油株式会社より、鷹取社長をお招きし、ぶっちゃけトーク。
創業111年の鷹取醤油のこれまで、そして今後の展望とは。

photography：宗村 和磨（NEMURA FILMS）

BAZ-K（以下、B）：鷹取醤油さんの歴史を教えてください。

鷹取醤油株式会社 代表取締役 鷹取 宏尚（以下、鷹）：今年で創業111年になります。明治38年、1905 年に創業しました。私が鷹取醤油に帰ってきてからは 25 年になるんですが、それまではお醤油の醸造だけをこの備前の地で行っていました。この地で醸造するきっかけとなったのは、香登という地に熊山という大きな山があるんですが、そこから湧き出る伏流水が、お醤油の醸造に非常に適していたからなんです。現在はうちを含め２軒ほどとなったんですけど、明治から昭和にかけては、お醤油屋さん、酒屋さん、酢屋さんなど、醸造蔵で 10 軒ぐらいこの香登にありました。

B：それは大手メーカーの進出などによる影響があったんでしょうか？

鷹：そうですね。

B：そんな中鷹取醤油さんが今もなお、この場所で続けていけている理由は何があったんでしょうか？

鷹：地元の味を先代、先先代含め、大事にしてきたんです。この地の味というのは、お醤油にまろやかな甘みがあり、色具合は濃い口ではあるんですが、薄めの色味。これは何かと言うと、瀬戸内海で獲れるタンパクな鯛や鮒をおいしく食べるために適したお醤油なんです。例えば同じ中国地方でも鳥取や島根の地の醤油は、濃ゆくて、ドロっとしたお醤油なんです。これは日本海側で獲れるブリなどのお魚に合う醤油なんですね。こういった地の味を大事にすることをずっと言い続けられていましたね。

B：鷹取社長の代になり、新たに取り組まれたことは何だったんでしょうか？

鷹：私が 25 年前にここに帰ってきたときに、たくさんの知り合いの方がいて、たくさんの方に『お醤油持っておいで』とお声をかけていただいておりました。ただ、そのときにうちにあったお醤油は一升瓶に入った４種類だけだったんです。それを持っていくと、あるお店では『一升瓶 6 本は使いずらいな』、またあるお店では『一升瓶 6 本か、うちは一斗缶がいいんだよ』などのお声をいただいたんです。一升瓶しかないということが実は一番中途半端だったんですよね。例えば、家庭用ならペットボトル、業務用なら一斗缶ですよね。うちは前々から家庭用に作っていた一升瓶しかなかったので、各お客様のニーズに合わせ、様々なサイズのお醤油を作りました。また、大阪や東京で修行をされた料理人の方が岡山へ帰ってお店をするとうパターンが非常に増えたんですね。これまで別のお醤油を使って修行をしていた方たちがうちのお醤油を使うと『甘い』と最初に拒否反応を起こしていたんです。今でさえうちのお醤油を様々な飲食店さんで取り扱ってもらっているんですけど、そんなお店は当時は一軒もなくて、せっかく仲良くしていても、お醤油を通じてのお付き合いができなかったんですね。であれば、関東風のシャキっとしたお醤油や、関西風の薄口のお醤油も作るなど、お客様との接点、橋を架ける作業を行いました。

B：なるほど。

鷹：そんなあるとき、ある洋食屋さんのオーナー様にうちのお醤油を持って行くと、『お醤油は鷹取さんのものを使うけど、もっと鷹取さんのお醤油を通じて仕事がしたい』とお言葉をいただいたんです。ただ、相手は洋食屋さんで、『うちが料理をする中で一番使っている調味料を研究してごらん』と言われ、じっと研究すると、それはドレッシングだったんです。ドレッシングは原材料を見ると、油の次にお醤油が使用されているんですね。当時、ドレッシングは作ったことすらなかった商品だったんですけど、その洋食屋さんで取り扱ってもらうために 80 回以上の試食を繰り返し、採用いただきました。その中で学んだノウハウを生かし、今では約 80 種類のドレッシングを商品化させてもらっていて、**これが実は私にとっての大きなターニングポイントだったんですね。**

B：現在鷹取醤油さんは、鷹取醤油と燕来庵の２店が並列してあるのですが、それぞれのお店を分けられている理由は何なんでしょうか？

鷹：２ブランドのような格好になっているのですが、これは、**鷹取醤油で作った商品と、鷹取醤油を使用して作っていただいた商品を販売したい**という想いから、２ 店舗目の燕来庵を設立したんです。

B：鷹取醤油さんの１つの商品として、若者からも大人気のしょうゆソフトクリーム、ポン酢ソフトクリームがあるんですが、これは若い方への発信もしていきたいという想いから作られたんでしょうか？

鷹：このソフトクーリームは、若い人への発信のために作ったものではなくて、取っ掛かりなんです。何かと言うと例えば百貨店でうちのお店の紹介を行うときに、かまぼこにお醤油をつけてお客様にお渡しすると、『おいしいかまぼこね』とう反応で、これではダメだなということで、今度は豆腐にお醤油をつけてお渡しすると、『おいしいお豆腐ね』と、全然お醤油に目がいかず、お醤油の魅力を伝えづらかったんです。そんな中で、すぐ食べれるもので、かつインパクトのあるものは何かと考えていった中で、醤油ソフトクリームが生まれたんです。これを思いついたきっかけは、カンロ飴って茶色い飴があるじゃないですか。あれは実はお醤油と水あめでできているんですね。カンロ飴の発祥は山口県なんですが、そこの醤油はドロっとしたお醤油で、再仕込み醤油というんですが、それが少し言いにくので、カンロ醤油と言われているんです。それが由来でカンロ飴と言われているんですよ。また、ショ糖とミルクからできているのが、練乳なんですが、ここにお醤油をちょっと落とすと、醤油ソフトクリームと同じような味になるんですよ。

B：すごい！どうやって思いついたんですか？

鷹：毎日お醤油のことばっかり考えていたら思いつくんです（笑）。そこから試作などを繰り返し、納得のいく本当においしいソフトクリームができ、商品化しました。

B：これを全国的に展開していこうというような考えはないんでしょうか？

鷹：それはないですね。もちろん物産展などへ行って、認知を上げていく取り組みはしているんですけど、**あくまで香登まで来て欲しい**という想いがあって、ここだけで販売しています。香登へ来て、伊部に行って、備前焼をしに行って、というような流れが備前にできたらいいなと思っています。

B：今そういった流れはできているんでしょうか？

鷹：できつつあるような、ないような。まだまだ備前は点と点なので、これをしっかり線にして、もっと太い線にしていきたいと思っています。

B：最後に、鷹取社長の夢を教えてください。

鷹：私がここに帰ってきた頃から毎年目標を立てているんですが、目標は目的を達成するために立てるものですよね。その目的というのは、**“100 年後に世界中でどの食卓にもあるような食品、調味料を作ること”**です。『これ実は 100 年前に岡山の備前にある鷹取醤油が作ったものらしいよ』とどこかで言ってもらえる商品を開発したいです。現在約 300 ある商品の中で、もしかしたらその中にすでにあるかもしれないし、ないかもしれない。でも、それを作るために私は様々なことに挑戦していきますし、必ず作ります。

Today's Guest
鷹取 宏尚
鷹取醤油株式会社 代表取締役

Interviewer
BAZ-K
THE MANSION オーナー

Special Interview Column　岡山生まれのシンガーソングライター・玉川洋輔が聞く！

DREAM ARTIST

インタビュアー：玉川洋輔

1st シングル「 雨 」発売中！
二度と繋がれない君を想い続ける…もう叶わないとわかっていても。儚くも切ない極上のバラードソング。【価格】3 曲入り ¥1000（税込）
Ameba：http://ameblo.jp/0912yosuke1225/
facebook・Twitter・Instagram：玉川洋輔で検索

Vol.14 mihoro

自分のやりたい音楽ができればいい。そしてたくさんの人に私が作った音楽を聞いてほしい

on Starting Point ― mihoro のはじまり ―

「家にギターがあったので、なんとなく…」

玉川：現在まだ 16 歳ととても若い mihoro ちゃんですが、音楽を始めたきっかけを教えてください。

mihoro：音楽を始めたきっかけは「なんとなく」、です（笑）最初は歌が大好きでっていうよりも、ギターがもともとお家にあったので､触っているうちに…（笑）夏休みに入っていたってこともあって、なんとなーく弾く練習を始めていました。それが中学校2年生の時です。

玉川：夏にギターの練習を始めて、その冬にはもうステージに立っていたとかいないとか？

mihoro：最初は友達と2人でステージに立ったんです。だからその時は緊張とかより頑張ろう！ みたいな感覚の方が大きくて。そんなこんなみんなに経験をさせてもらって、いまはひとりでギター片手にステージに立ち、弾き語りのスタイルで歌うようになりました。

mihoro（みほろ）
シンガーソングライター。2000 年 6 月 30 日生 かに座 A 型。中学2年生の夏にギターを始める。心に寄り添う優しい歌声で歌を唄いながら、ギター片手に岡山県を中心に、各地イベントや、カフェ、ライブハウスにて活動を展開中。

on Her New Chapter ― mihoro のこれから ―

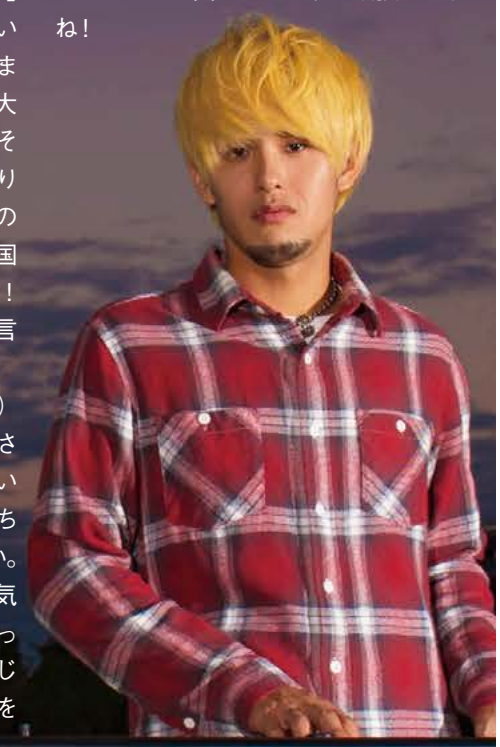
「自分の作る音楽で岡山を盛り上げたい」

玉川：これからの目標や夢を教えてください。

mihoro：自分の歌いたい、演奏したい音楽で岡山をどんどん盛り上げて行きたい。二度と戻ってはこない「10 代の私」から見えている景色。いましか書けない歌詞や曲もあると思うし、そこからいまの世の中に必要だと思うものを、等身大の自分の音楽で届けていきたいです。そのためにも、曲を書くことや、弾き語りの練習は毎日頑張っています。自分の作った音楽が岡山の街を通して、全国へ盛り上がっていけば本当にうれしい！ 岡山ってどこ？　なんて絶対に誰にも言わせない！（笑）

玉川：すご！　頼もしすぎるから！（笑）僕もいま mihoro ちゃんの勢いに刺激されっぱなしで頑張りたいやってやりたい気持ちが溢れてます。仕事や恋愛、もちろん遊びや音楽。どれも簡単じゃない。でもこの頑張ろうとかやってやろうの気持ちがあれば叶うこと。それをもっともっとみんなに知ってほしいし、音楽を通じた僕らの思いや気持ちが、このページを読んでくれている方々、僕らの音楽を聴いてくださる方々にしっかり伝わればいいな！

mihoro：私も頑張ってる、努力をしているみんなに負けないように頑張りますね！



撮影：Ryo Oonishi　Instagram…Ryo_photography

INFORMATION

【mihoro -SNS-】
Twitter…31_m_m　Instagram…mimimi.313131

【EVENT】
第一回高校生文化祭　2016.12.26（mon）
［会場］岡山ドーム　※詳細は mihoroSNS にて。
ホワカラフェス　2017.1/8（san）［open］15：00［start］16：00
［会場］@ 倉敷 REDBOX
岡山県倉敷市老松町 5-1-15 2F（JR 倉敷駅から徒歩 15 分）
http://www.kurashiki-redbox.com/
［ticket］前売り ¥3000（1drink 別）、当日 ¥3500（1drink 別）
［出演］ISH-ONE / 1FINGER / RYO-HEY / KENGO（from 高知）/ 玉川洋輔 / 吉永拓未 / mihoro /dancer studio RAIZ JUNCO/ DJ Diddy
［主催］white color incept セレクトショップ

※各種イベント詳細は mihoroSNS をチェック！

MOVE UP ACTION!!

岡山の学生の力で岡山を元気に！

今号よりスタートの学生アクション宣言‼岡山県内の大学・短大・専門学校に訪問し、岡山を元気にしていくためのアクション宣言を掲載していきます！まずは、１回目の掲載ということでOKAYAMA MOVE UP学生チームメンバーからのアクション宣言です！

TEAM2020
-OKAYAMA MOVE UP-
from students.

《MAWARU》 イベントスタッフとして 参加させていただきました！

9月17日～19日の3日間、問屋町で行われたストリートスポーツイベント“MAWARU”にスタッフとして参加させていただきました！今回学生チームは、2日間参加させていただき会場整備やタイムキーパー、フリーペーパー最新号の配布などを行いました。たくさんの方に、学生チームを知ってもらうことができたので、今後も様々な活動に参加し岡山を盛り上げていきたいと思います!

メンバー紹介

横溝 佑佳（左）
ノートルダム清心女子大学
岡山県出身

渡辺 沙織（右）
ノートルダム清心女子大学
岡山県出身

TEAM 2020 -OKAYAMA MOVE UP-

岡山を一緒に盛り上げてくれる 学生の皆さんをお待ちしています!!

《応募方法》
⑴お名前　⑵お住まい（市）　⑶電話番号　⑷学校名／学部／回生

OKAYAMA MOVE UP公式Facebookメッセンジャーまたは、OKAYAMA MOVE UP公式Twitterダイレクトメッセージより上記必要事項をご明記の上、お気軽にご応募ください。

※あくまでボランティア活動です。
※個人情報に関しては、活動以外の目的には一切使用いたしません。
※岡山県出身または在学中の大学生、短大生、専門学生の方のみとさせていただきます。

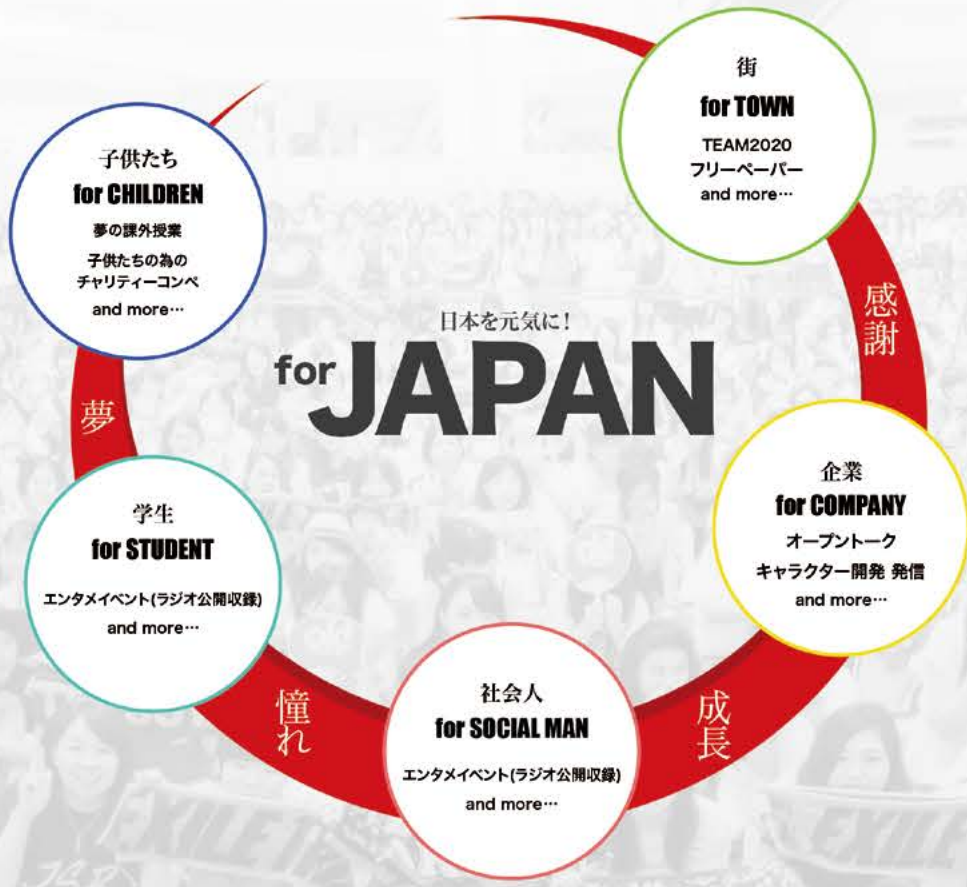
OKAYAMA MOVE UP

岡山から日本を元気に!

『岡山を元気に!』『岡山から日本を元気に!』をコンセプトに、フリーペーパーOKAYAMA MOVE UPの発行をはじめとし、各種イベントを実施するなどエンタテインメントを中心に岡山を盛り上げる活動を行っています。
この活動が意義あるものとして皆様方によりご賛同頂けるよう、「岡山県民が元気になる」「岡山県民が岡山を好きになる」「他府県の方々が岡山の良さを知ってもらう」事を目的としています。

「日本を元気にする為に、まずは岡山が元気になろう!」

その為に何が必要か?子供たちに「夢」を、若者に「憧れ」を、社会人に更なる「成長」を与え続ける…それが企業を街を発展させ、岡山を元気にしていく事だと確信します。
さらに TOKYO MOVE UP との連携による中央とのネットワークを生かしたコンテンツを創造し、若年層への「認知の拡大と巻き込み」を実現します。
また地方創生のモデルのひとつとして「社会的活動」と「エンタテインメント」、「スポーツ」の融合による岡山を元気にするプロジェクト、それが OKAYAMA MOVE UP です。



OKAYAMA MOVE UP実行委員会 加盟企業一覧 (2016年11月11日現在)

TYPEX co.,ltd. / VERTICE / Lee GROUP / KIRIN / 株式会社 安田商事運輸 / SAITO PRINTING CO., LTD. / 株式会社エムシーエム / 小林電工株式会社

株式会社祥　株式会社DMM.com　有限会社ル・クルジャポン

special partner　Coca-Cola West　イオンモール岡山

OKAYAMA MOVE UP 賛同企業加盟・その他お問い合わせは右記まで OKAYAMA MOVE UP実行委員会運営事務局(株式会社HEADLINE WEST／TEL:086-250-8089)

OKAYAMA MOVE UP
隔月誌【オカヤマ ムーブ アップ】2016年11月11日発行 vol.23 NOVEMBER
●発行人／原 眞典(株式会社HEADLINE WEST) 一木 広治(株式会社ヘッドライン)
●発行所／株式会社HEADLINE WEST
〒700-0925 岡山県岡山市北区大元上町12-14 Leeビルディング1F TEL:086-250-8089
●編集・製作／株式会社ヘッドライン
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷2-9-6パルビゾン3 403号
HEADLINE WEST / TOKYO HEADLINE

妻夫木聡は1000のマスクを被る男!?
映画『ミュージアム』11月12日公開

妻夫木聡

SPECIAL INTERVIEW

それは、雨の日に現れるカエルマスクの殺人者―。『るろうに剣心』シリーズの大友啓史監督が人気コミックを実写化した話題の映画『ミュージアム』が11月12日より全国公開。本作の象徴ともいえる、悪の権化のようなキャラクター“カエル男”を演じるのは何を隠そう、日本を代表する俳優、妻夫木聡！

それで、とりあえずマスクを被ってみよう、と思いました（笑）

て、他の人からは理解できないことでも彼らの中ではつじつまが合っている。普通の人とは志向が違うけど、本人にとってはああいう行為が幸せなんでしょう。これはもう思考回路を変えないといけないんだろうなと思い、取りあえずカエルマスクを被ってみよう、と（笑）」

　カエル男の日常をなぞるような作業も、役作りに役立ったようだ。

「本作で造形と特殊メイクを担当している百武朋さんの事務所に、勉強をさせてもらいにお邪魔したり、自宅でも作ってみたり、そういう作業からやっていました。物を作る作業というのは楽しいし、作業中は無になって没頭できる。役者をしていても芝居でゴールを感じることは無いので、ものを完成させるというゴールのある作業をすることも僕にとっては目新しく楽しいものでした。その感覚は、完璧主義者であるカエル男にも通じるものがあったと思います」

　サイコパス的思考の持ち主、完璧主義者…人物像をつかんでも、共感することは難しい悪人。そのギャップをどう消化していったのか。

「そもそも、そういうギャップを僕の中で消化してないし、しなくていいのかなと思います。カエル男の気持ちが分かったとしても、それはあくまで僕が分かったというだけのこと。僕が、カエル男に共感できなくても彼の中で筋が通っていれば、それでいい。僕自身がその人物になって楽しんでいれば、そこから表現された芝居というのは真実に変わるんじゃないかな。今はそういう概念を持って芝居をしています。自分の自我を捨てる芝居、というか。だから本当に今回は、出たとこ勝負というか。マスクを被ってみて、どうなるかという感じでした。マスクを被って声を出してみて、ああ、こういう声なのかと自分で気づいたり。もちろん、それにとらわれても面白くないので、その都度、状況に合わせて演じましたけどね。考えてみれば、彼もカエルマスクを被ったときはカエル男になるんです。つまりマスクをしているときは、彼がカエル男を“演じて”いていい。おとなしい人でも着ぐるみを着るとテンションが高くなっちゃうでしょ（笑）」

　やりたい放題してしまったのでお客さんの反応が心配、と言いながらも楽しそう。

「楽しんでいないと、やっていられないというか。悩みながら演じる役ではなかったですから。事実、この役に入り込んでいたので普段から楽しくてしかたなかったのかも（笑）」

『ミュージアム』

STORY：雨の日だけに発生する猟奇殺人事件。その犯人“カエル男”は“刑”を与えるかのように被害者を殺害していく。事件を追う刑事・沢村は、カエル男の次なるターゲットが、数日前に家を出た沢村の妻だと気づく…。

監督：大友啓史　出演：小栗旬、尾野真千子、野村周平、妻夫木聡他／2時間12分／ワーナー・ブラザース映画配給／11月12日より公開　http://wwws.warnerbros.co.jp/museum/

©巴亮介／講談社 ©2016映画「ミュージアム」製作委員会

“カエル男”は頭で考えて演じる役ではないんだろうなと思ったんです。

“怖い!”“ヤバい!”と話題を呼んだスリラー・エンターテインメントがスクリーンで新たな衝撃を放つ!

「まさか自分に、この役が来るとは思っていなかったので話を頂いたときは相当、驚きましたね（笑）」

公開前に行われたプレミアで明かされるまで、誰も想像しなかったはず。何しろ今回妻夫木が演じるカエル男は、マスクを被っている間はもちろん脱いだ姿も特殊メイクが施され一見、妻夫木とは分からない姿になっているのだ。

「こういうユニークな役でお話を頂けるのは、僕にとって、すごくうれしいことなんです。普段、演じないような役に挑戦するのは役者としても刺激になりますし。それに僕はもともと原作を読んでいて、すごく好きな漫画だったんです。常にアンテナを張っているとか映画化を考えたといったことではなく単純に、面白い作品だなと思って読んでいたんです。カエル男も、すごくチャーミングで。漫画ならではのチャーミングさというか、魅力を感じたんです。普通に考えれば、ただのサイコパスなんでしょうけど（笑）、それがリアルすぎないというのかな。この映画自体も、そういう作品に仕上がっていると思うんですが、衝撃度は高いのに見ている側は、どこか楽しんでしまうんですよね。それはおそらく、カエル男が持つキャラクターの魅力によるところも大きいと思います。怖いだけじゃないんです。この作品は一つの路線に行きすぎていない。恐怖や緊張感と、好奇心や興奮といった感覚がギリギリのラインで絶妙なバランスを保っているんです」

そんな複雑な魅力を持った猟奇殺人者を、どう役作りしていったのか。

「大友監督からも、映画でやる以上は映画としての魅力を出していきたいとうかがっていたので、僕なりにカエル男をどう表現するか、いろいろと考えました。監督とも話していたのが、彼は完璧主義者だということ。原作だとわりと病弱そうなイメージの人物なんですが、映画では、完璧であるために筋肉質な設定にしようということになりました。身体を鍛えるシーンも撮りたいと監督が仰っていたので、嫌いなジムにも数カ月通いました。結局そんな撮影は無かったんですけどね（笑）」

筋トレシーンはなくとも、小栗旬演じる沢村刑事とぶつかり合う肉体の強靭さから、カエル男がかつて無いタイプの殺人者であることがうかがえ、一層、危険なキャラクターになっている。しかもその内面は、殺人を作品と称し自らをアーティストと名乗る思考の持ち主だ。

「参考になりそうな作品を見て考えたりもしたんですけど、たぶんこれは頭で考えて演じるものではないんだろうな、と思ったんです。彼らには彼らなりの考え方があっ

漫画とはまた違う、映画だからこその楽しさを味わえる作品。僕は見終わってスカッとしましたね

　完成した作品を見た感想は？
「面白かったんですよ。こんなにスカッとしたのは久しぶりだなというくらい、スカッと見れた（笑）。娯楽としての映画の醍醐味を味わうことができました。もちろん、いろいろ考えさせられるような映画も必要だけど、見終わった後に人とわいわい映画の感想を言い合えるのって楽しいですよね。やっぱり大友監督はウマいと思いました（笑）」
　映画としての強みを最大限に生かした作品にもなっている。
「結末を知っていても違うんじゃないかと思わせるサスペンス感もかなり増しますし、やはり生身の人間が演じることによる緊張感というものがありますからね。映画は、漫画のように自分のテンポで読み進めることができないので、じらされたり見せ場で驚かされたりする楽しさがある。そういうところに大友監督の構成力が存分に生かされていると思います。お客さんを完全に楽しませる作品。ハラハラさせて驚かされて物語が終わり、ONE OK ROCKの曲が流れたときの満足感といったら（笑）。昔はみんな、事前情報を持たず、もっと何も考えずに映画を楽しんでいたように思います。映画を見て初めて、こういう物語だったんだ、と知ることも多かった気がする。そういうジェットコースターに乗るような映画の楽しみ方を、もっとしていいと思うんですよね」
　究極の悪を表現した姿からは想像もできない、優しい笑顔。難しい役を演じることも多い妻夫木だがストレスから“悪意”が芽生えることは無さそう。

PRESENT

妻夫木聡さんから読者１名にサイン色紙をプレゼント！
応募・詳細は 22 面にて。

　岡山の読者にサインをお願いしたところ「岡山には行ったことが無いんですけど、実はずっと行きたいと思っているんです。というのも友人が岡山でうどん屋をやっていて、けっこう繁盛しているらしいので、いつかは行こうと思っているんです」。いつか、うどんを味わう妻夫木の姿に遭遇できるかも!?

「いろいろな人に支えてもらっていますからね（笑）。なかでもやはり家族の存在は大きいです。僕はけっこう思ったことを自分のなかでため込んでしまうほう。ため込み過ぎて、それを父にぶつけてしまうこともありました（笑）。でも、そういうことも結局は家族が受け止めてくれて、自分も家族のために頑張りたいと思う。本当に家族の存在は大きいですね」
　ときには恐れることなく自我を捨て、どんなマスクも被りこなしてしまう俳優・妻夫木聡。とくに今回のマスクは必見！

岡山から日本を元気にするフリーペーパー

FREE

岡山ムーブアップ
vol.23
NOV 2016

OKAYAMA MOVE UP

FRONT SPECIAL INTERVIEW-2-
妻夫木 聡

FRONT SPECIAL INTERVIEW-1-
EXILE THE SECOND

SPECIAL INTERVIEW-3-
前野 朋哉

SPECIAL COLUMN
EXILE TETSUYA